

令和7年度第2回クマ被害対策等に関する関係省庁連絡会議

議事次第

令和7年11月6日（木）16:00-18:00
共用第1会議室（合同庁舎5号館22階）

【議題】

- 1 令和7年度クマ類出没状況等について
- 2 クマ対策施策パッケージの見直しについて
- 3 その他

【出席者】

警察庁生活安全局生活安全企画課	課長	阿波 拓洋
警察庁警備局警備第三課	課長	前田 勇太
警察庁生活安全局保安課	理事官	篠崎 真佐子
総務省自治行政局公務員課	課長	越尾 淳
文部科学省総合教育政策局男女共同参画 共生社会学習・安全課安全教育推進室	室長	岩倉 袞尚
農林水産省農村振興局 農村政策部鳥獣対策・農村環境課	課長	仙波 徹
	課長補佐（鳥獣被害対策技術普及班）	佐藤 駿悟
林野庁森林整備部研究指導課 森林整備部研究指導課森林保護対策室 国有林野部経営企画課国有林野生生態系保全室	課長 室長 室長	松本 純治 武藤 信之 諏訪 実
国土交通省総合政策局環境政策課 国土交通省水管理・国土保全局河川環境課	課長 課長	竹内 大一郎 島本 和仁
観光庁観光地域振興部参事官（外客受入担当）		今井 盾介

観光庁観光地域振興部参事官（外客受入担当）		
付外客安全対策室長		茂木 勇
防衛省防衛政策局運用政策課	課長	高橋 理
環境省自然環境局総務課	課長	近藤 貴幸
野生生物課鳥獣保護管理室	室長	佐々木 真二郎
企画官		笹渕 紘平
室長補佐		佐藤 大樹

【配付資料】

資料 1 令和 7 年度のクマ類の動向（環境省）

資料 2 新たなクマ被害緊急対策パッケージ（未定稿・会議後回収）

配布資料 1 クマ被害対策について（農林水産省）

配布資料 2 警察の取組（警察庁）

参考資料 1 （立憲民主党）クマ被害対策に関する提言

参考資料 2 （国民民主党）クマ被害対策に関する緊急要望

参考資料 3 自民党 鳥獣被害対策特別委員会（議事概要）

参考資料 4 鳥獣被害対策特別委員会クマ被害緊急対策プロジェクトチーム（10/31）申し渡し事項等への環境省回答



令和7年度のクマ類の動向

令和7年11月
環境省

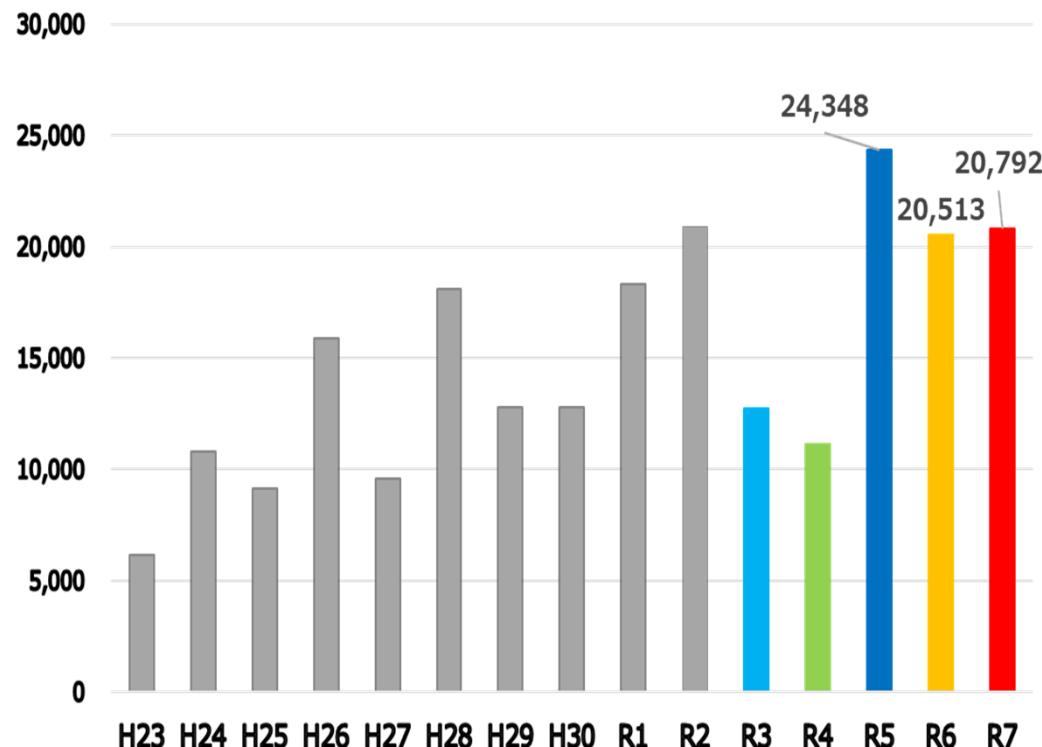


出没件数：ツキノワグマ（全国）

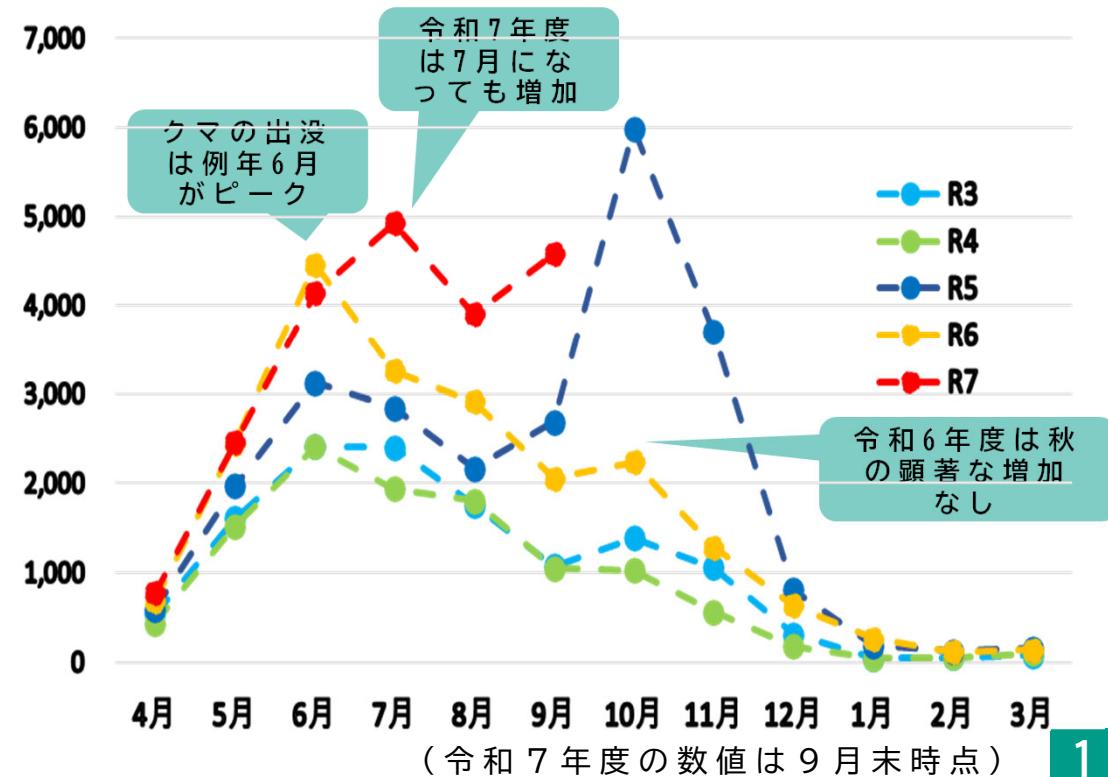
- 令和6年度と比較すると出没件数は同様に高い水準である※1。
- 令和7年度の出没件数は令和6年度と同様に初夏に増加した。出没件数は例年6月にピークとなって下がる傾向にあるが、令和7年度は7月時点でも増加傾向、秋に向けても増加傾向にある。
- 令和7年度の4～9月の出没件数は過去5年間で**最多**となった。

※1：出没件数は同一個体が複数回確認されること、住民の関心の高さ等に影響されることに留意が必要である

出没件数（年度別）

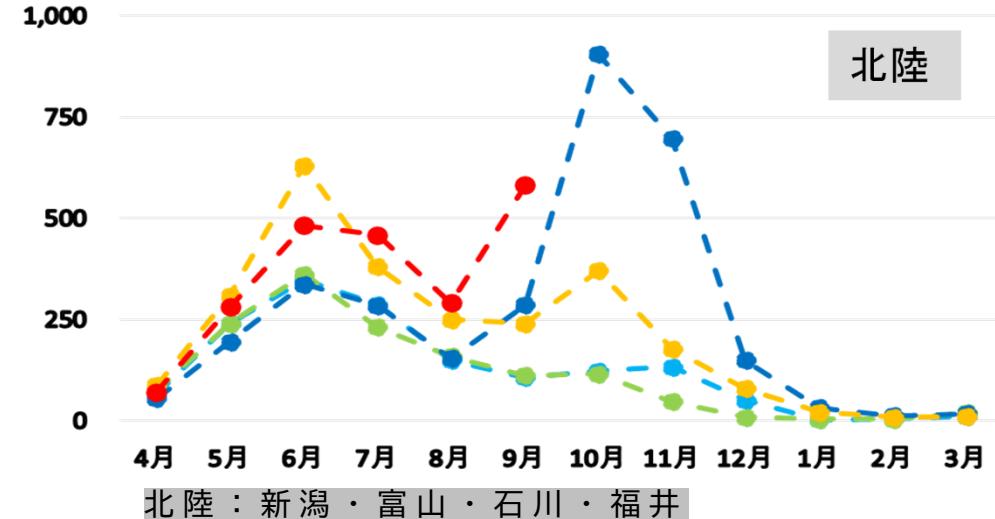
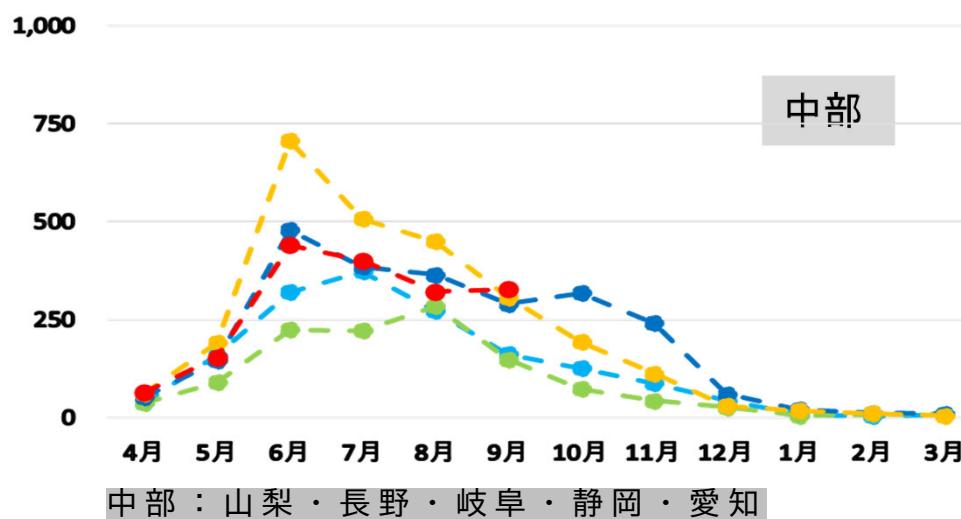
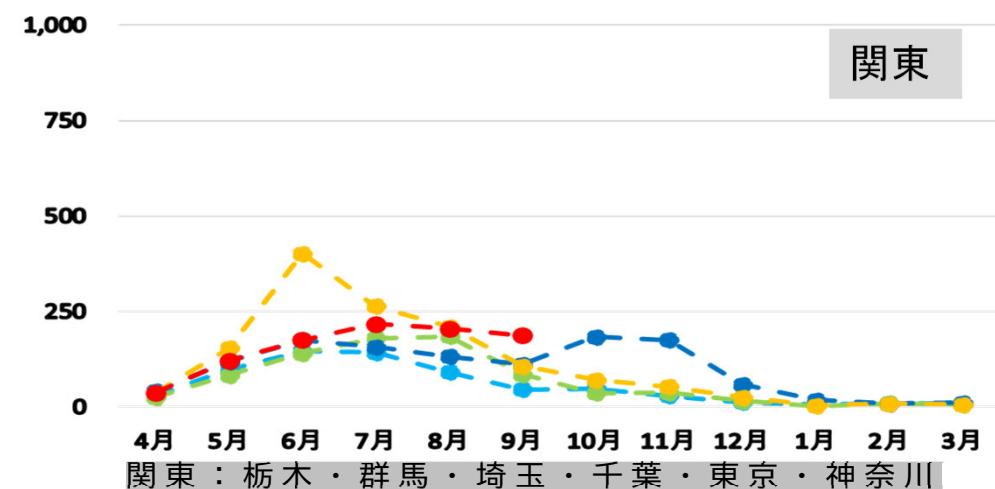
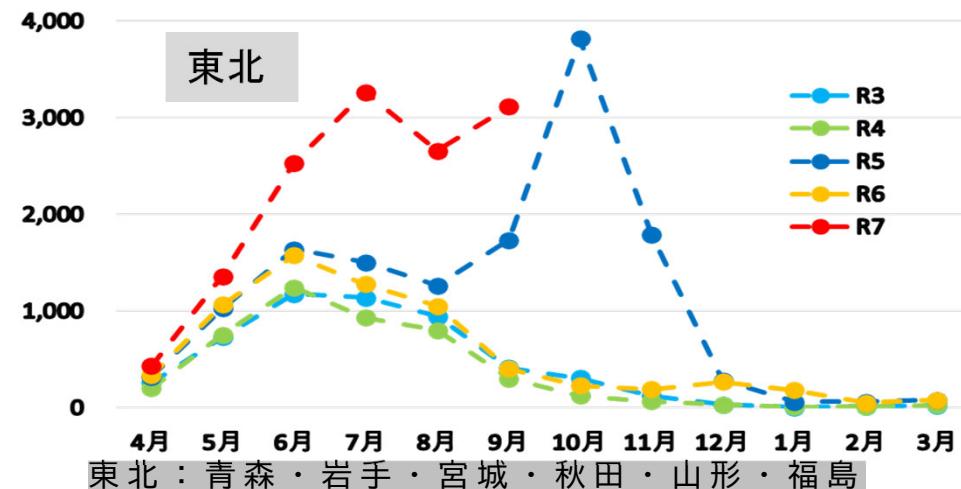


直近5年の出没件数（月別）



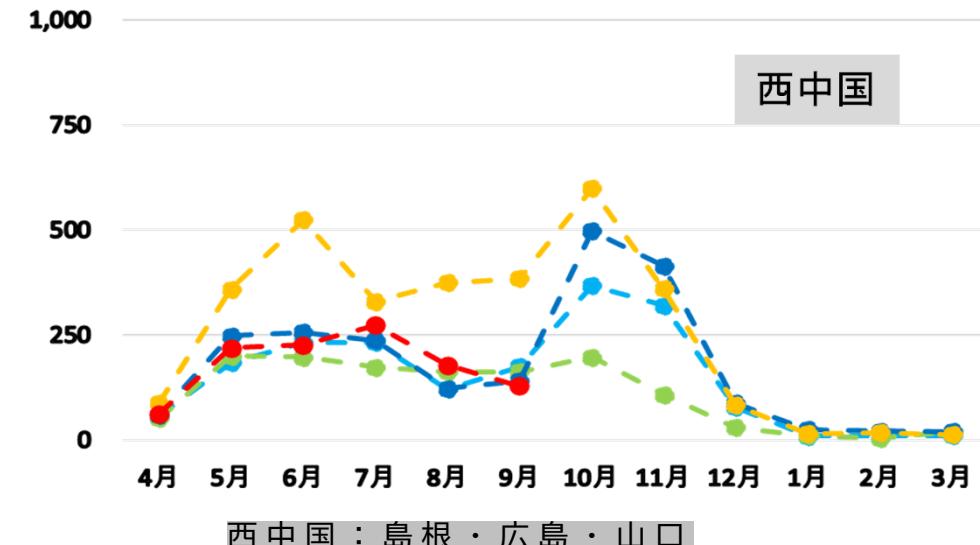
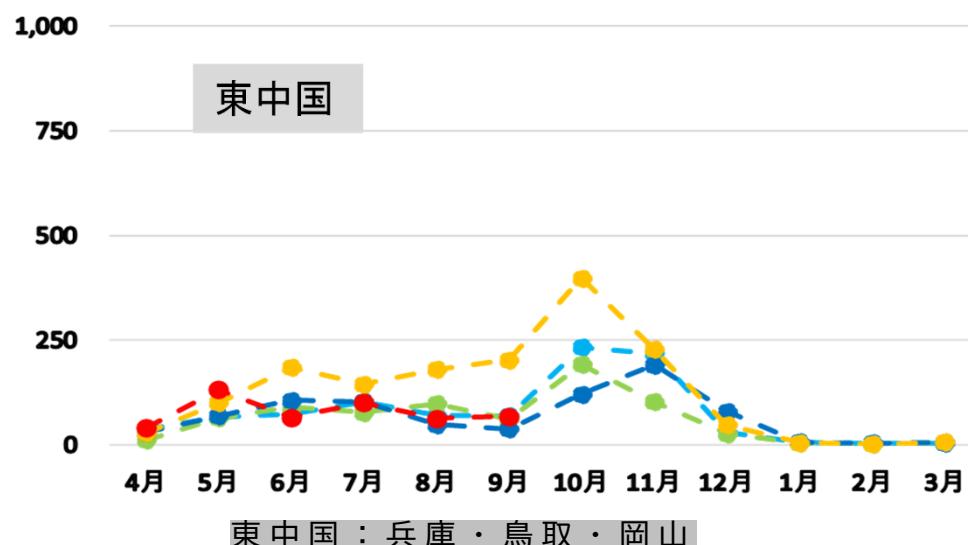
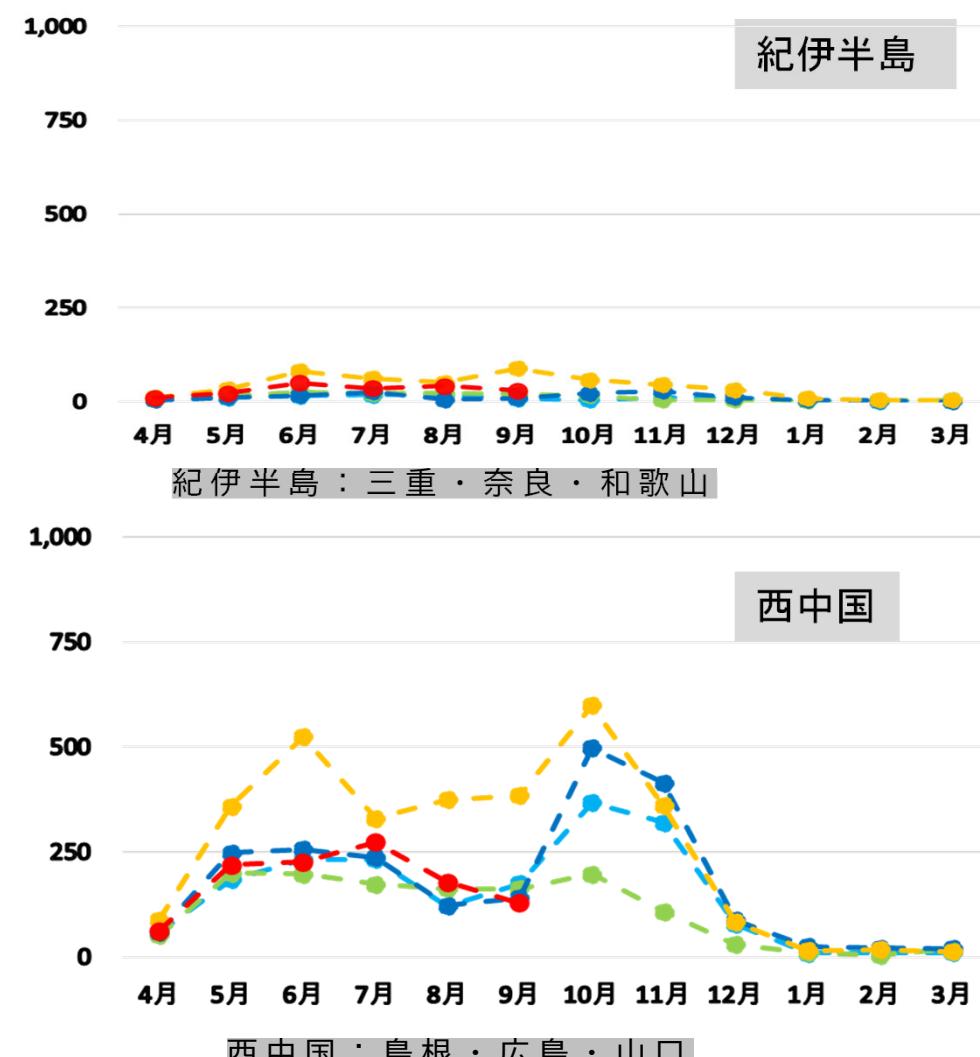
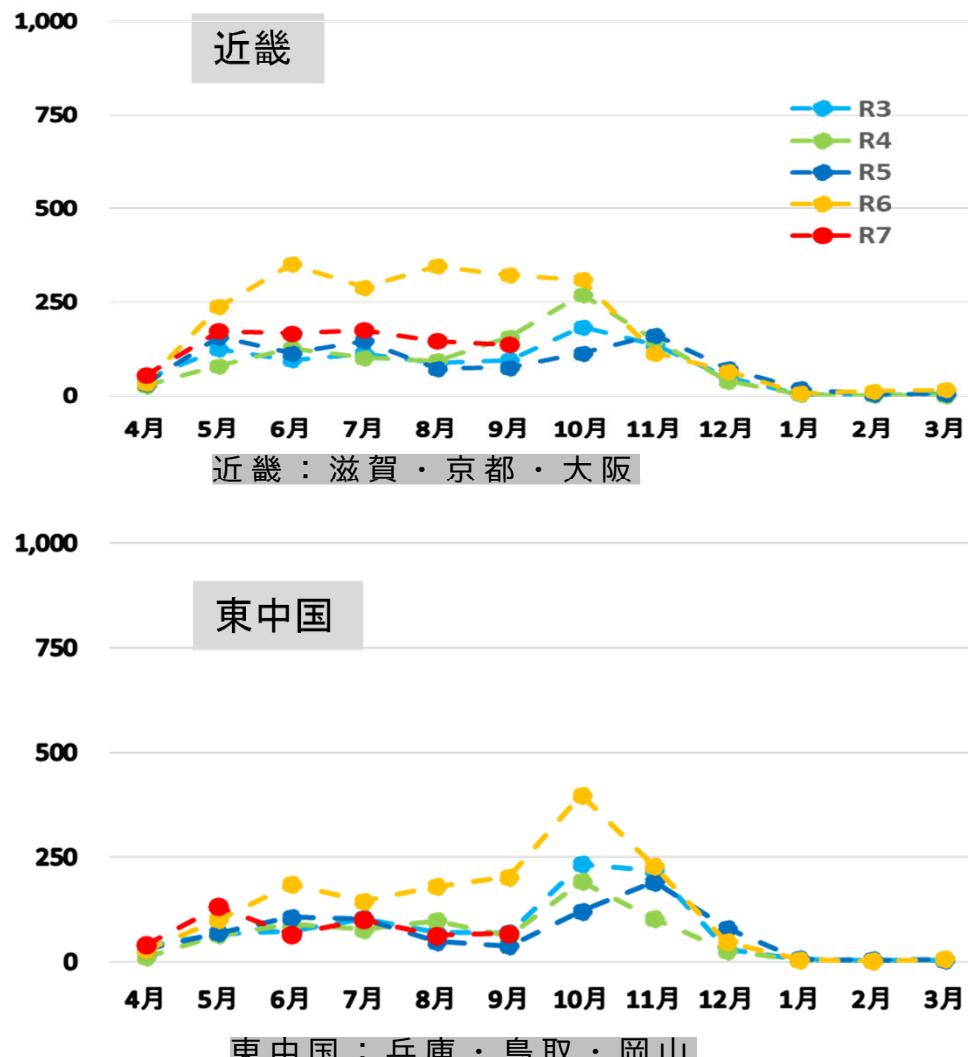
出没件数：ツキノワグマ（東北・関東・北陸・中部）

- 令和6年度は秋の顕著な出没件数の増加はなかった。堅果類が豊作の地域が多かったことが要因のひとつと考えられる。
- 令和7年度は、東北と北陸で出没が高い傾向にあり、特に東北地方の5～7月の出没件数が最も多くなっているほか、秋の出没が高い傾向となっている。



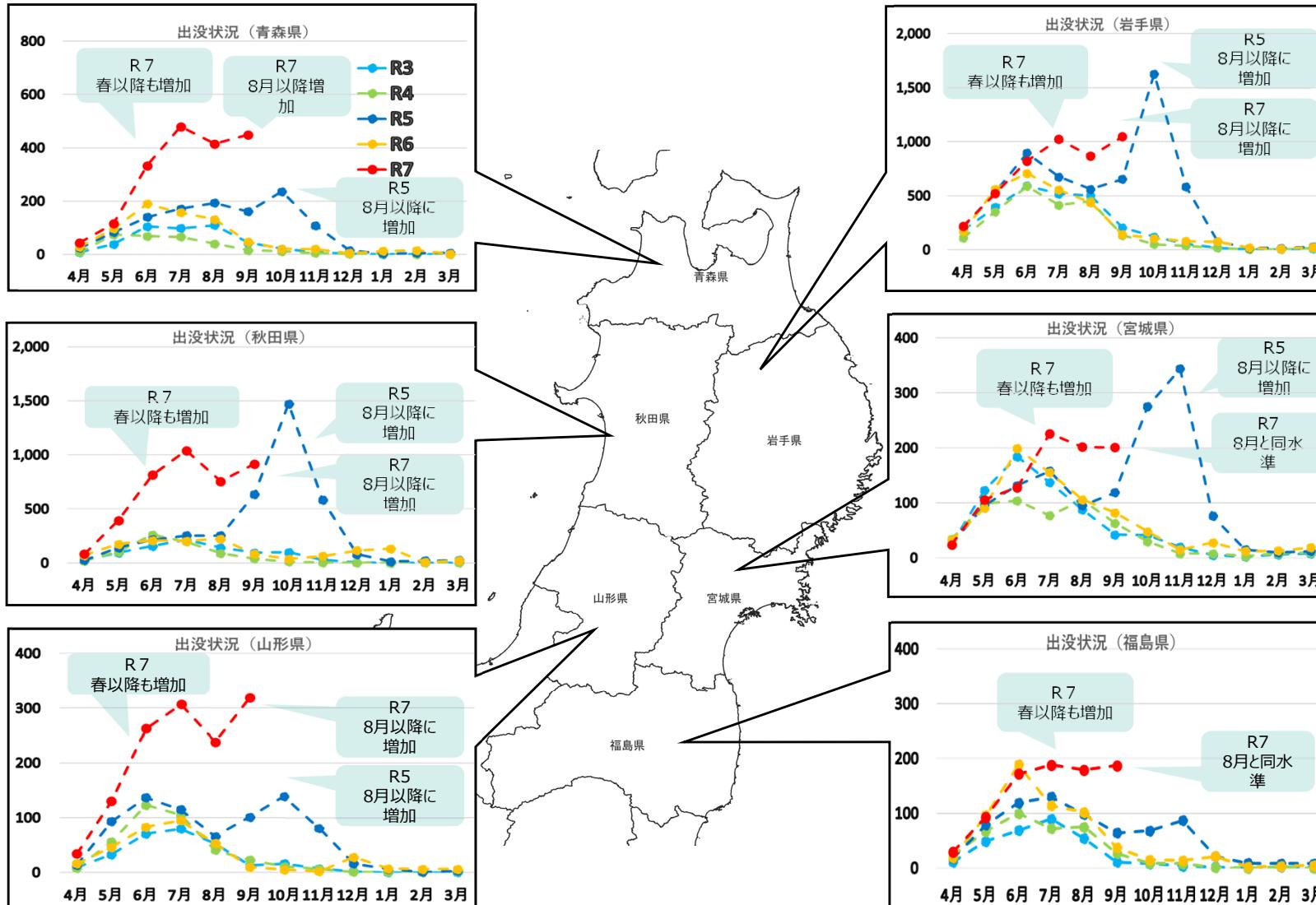
出没件数：ツキノワグマ（近畿・紀伊半島・東中国・西中国）

- 近畿・紀伊半島・東中国・西中国では、過去5年の中で令和6年度が最多出没件数で、特に6～9月の出没件数が例年と比べて多かった。
- 令和7年度の4～9月の出没件数は、例年と同様の傾向にあった。



ツキノワグマの出没状況（東北地方）

- 令和5年度は、青森、岩手、秋田、宮城、山形県で8月以降の出没件数が増加したが、令和7年度は例年以上に春先から夏にかけて多く出没する傾向にあったほか、秋の出没件数が増加傾向にある。
- 令和5年度の東北での秋の出没件数の増加は、ブナ科堅果類の凶作の影響による可能性。



東北地方 ブナの結実状況の比較
(令和7年は開花状況)

都道府県	令和5年 結実	令和6年 結実	令和7年 開花
青森県	大凶作	豊作	大凶作
岩手県	大凶作	並作	大凶作
宮城県	大凶作	豊作	大凶作
秋田県	大凶作	並作	大凶作
山形県	大凶作	並作	大凶作

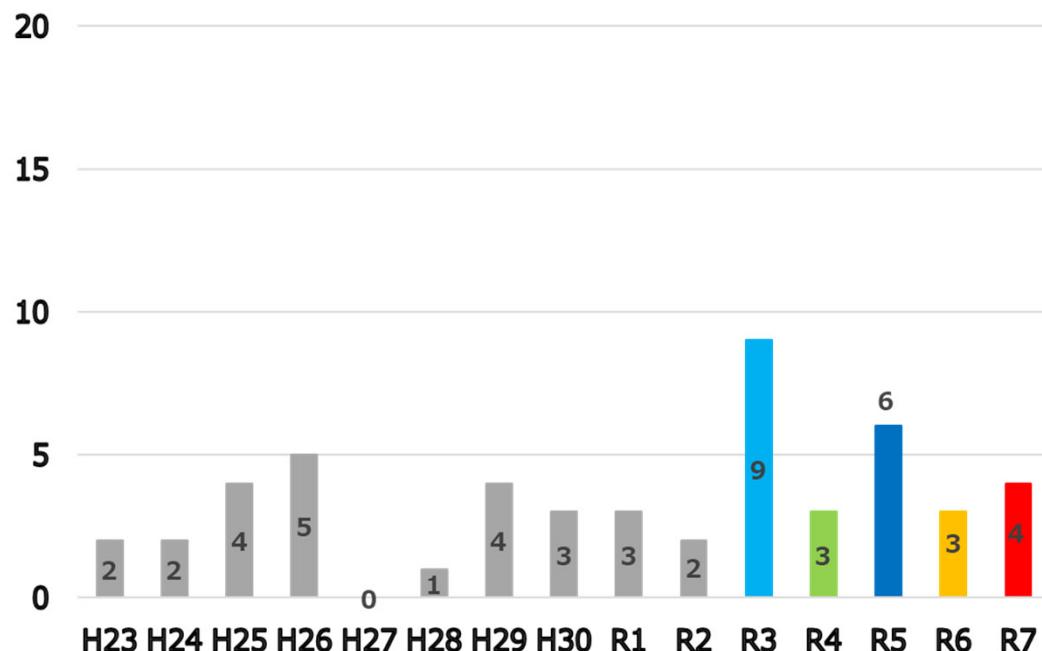
福島県（全体）堅果類の結実状況の比較

種類	令和5年	令和6年	令和7年
ブナ	凶作	並作	凶作
ミズナラ	並作	豊作	凶作
コナラ	並作	並作	凶作

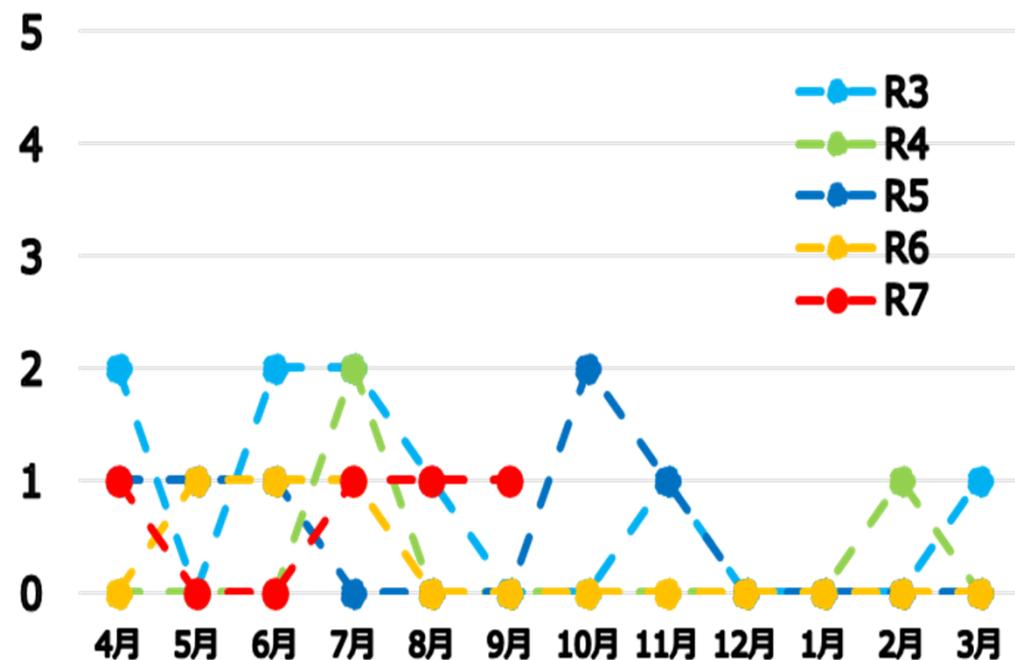
人身被害件数：ヒグマ

- 例年と比較して顕著な増加はない。
- 令和7年度の被害は7～9月の夏～秋に発生した。

ヒグマによる人身被害件数



直近5年の人身被害件数（月別）

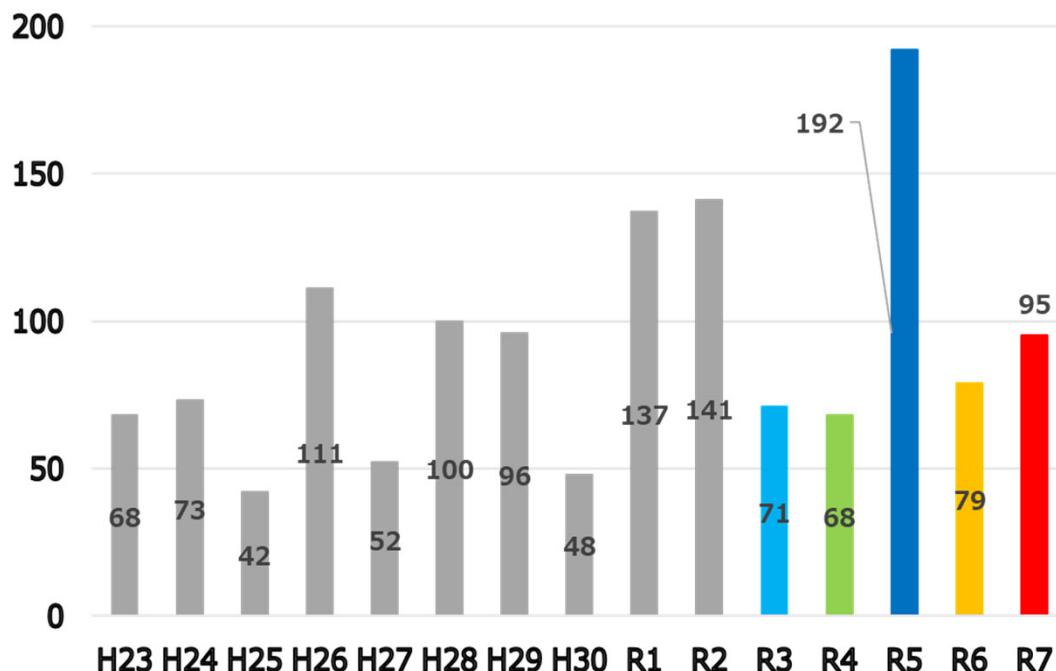


(令和7年度の数値は9月末時点)

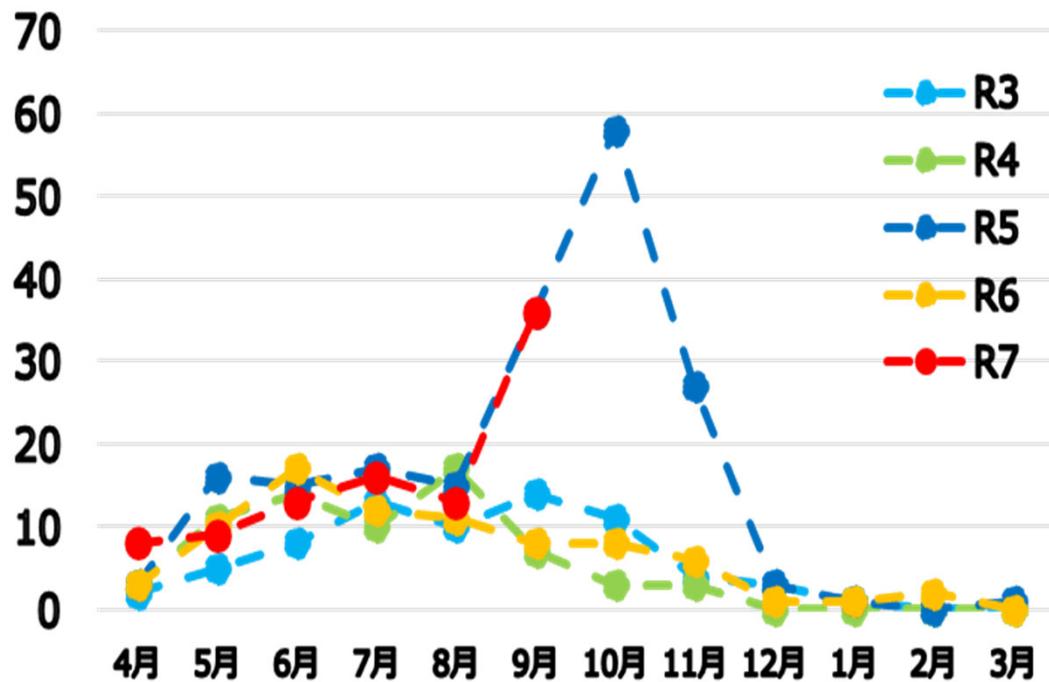
人身被害件数：ツキノワグマ

- 令和5年度は秋に人身被害が急増したが、令和6年度は秋に人身被害が増加するパターンはなかった。令和7年度は令和5年度と同様に秋に増加傾向にある。

ツキノワグマによる人身被害件数



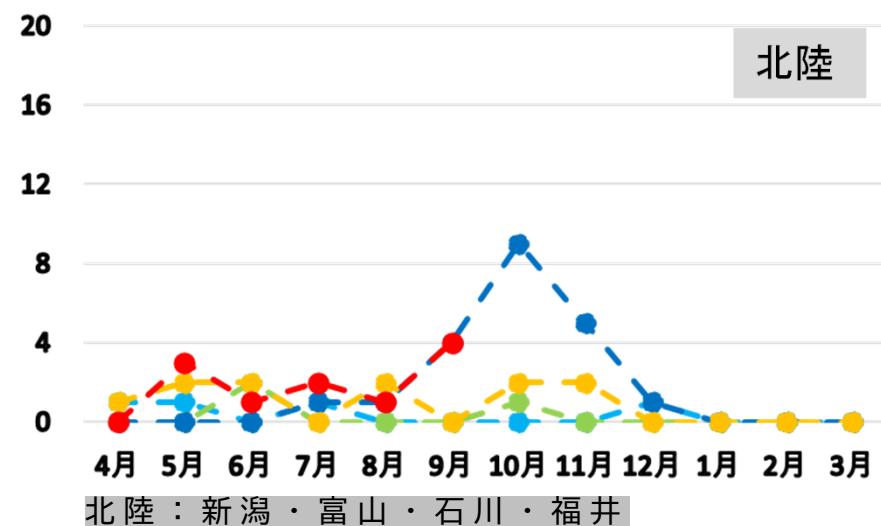
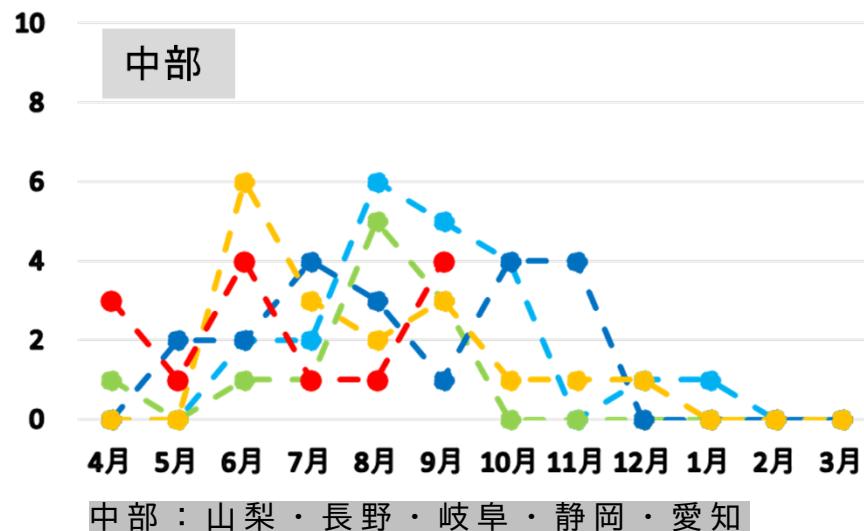
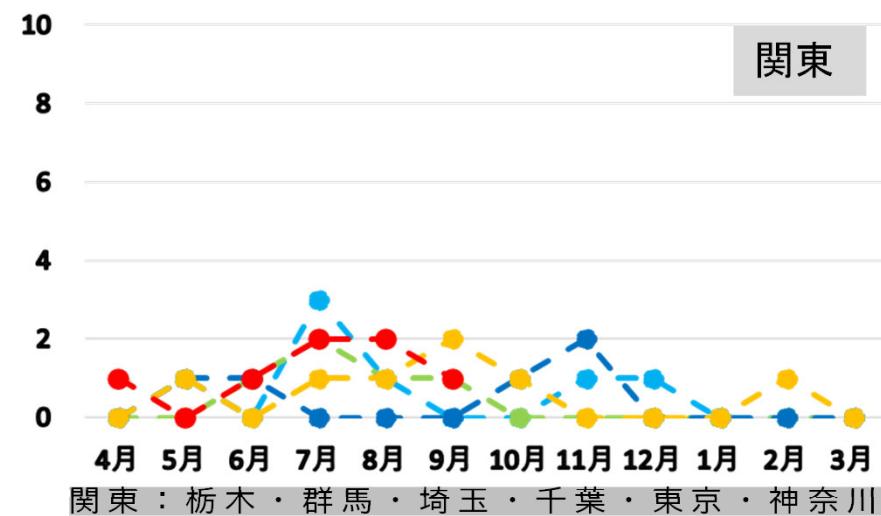
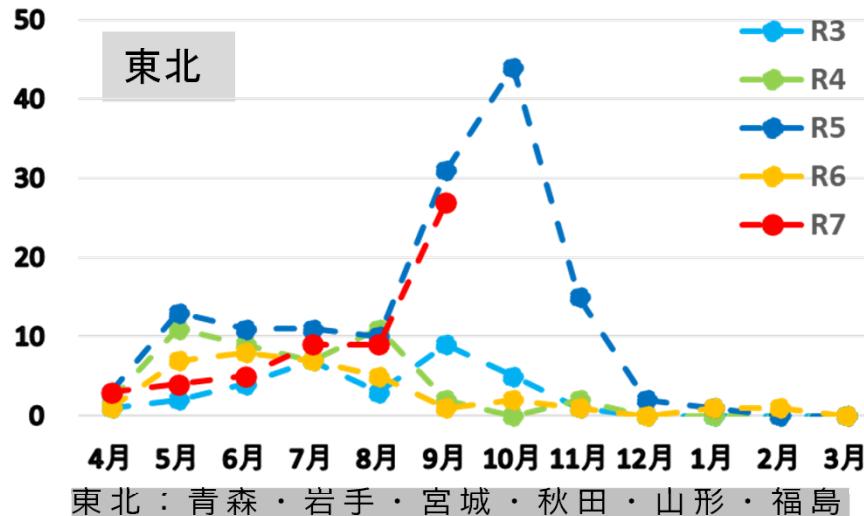
直近5年の人身被害件数（月別）



(令和7年度の数値は9月末時点)

人身被害件数（月別）：東北・関東・北陸・中部

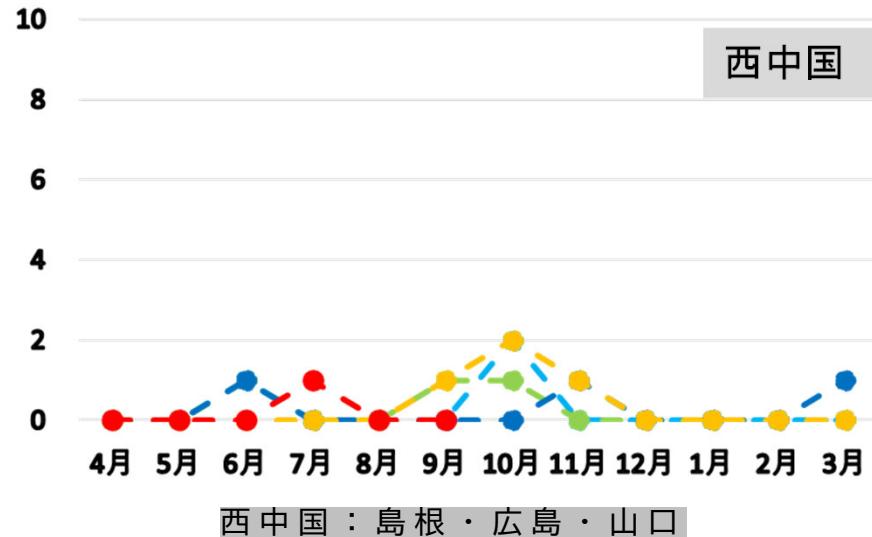
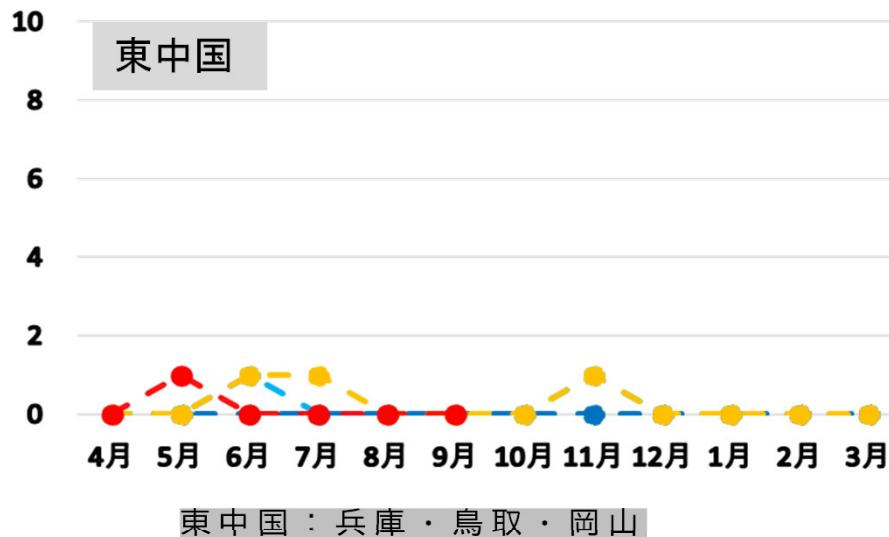
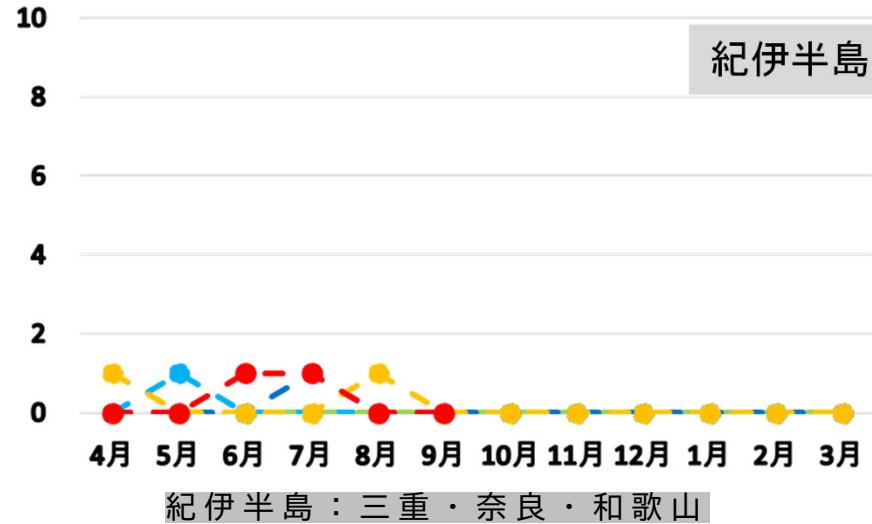
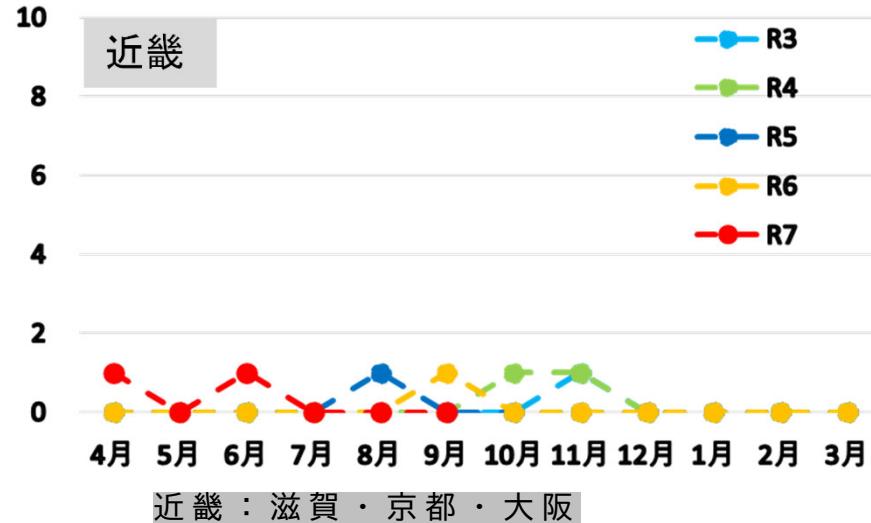
- 令和7年度の被害件数は、7月までは一部多い月もあるが全体として例年並み～例年より少なかったが、8月以降は東北、北陸地方において令和5年度と同様に増加傾向であった。



人身被害件数（月別）：近畿・紀伊半島・東中国・西中国

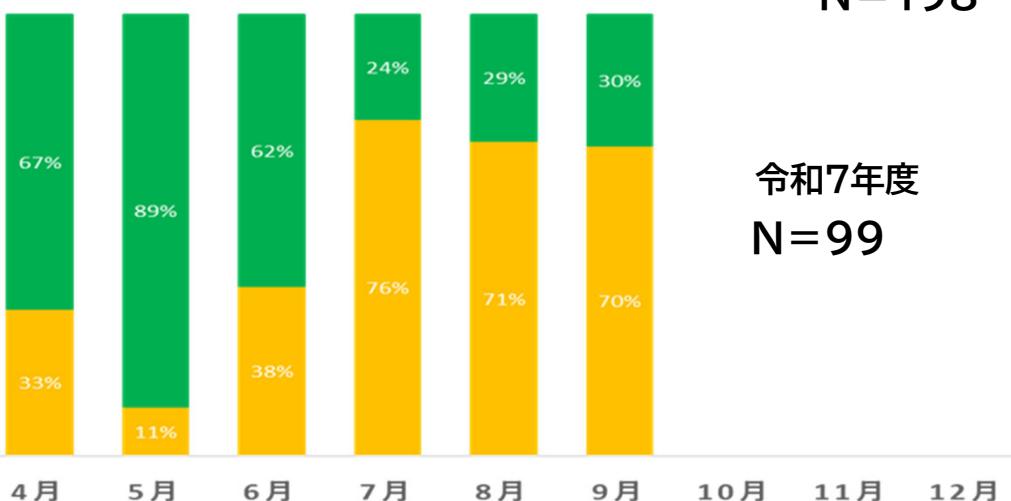
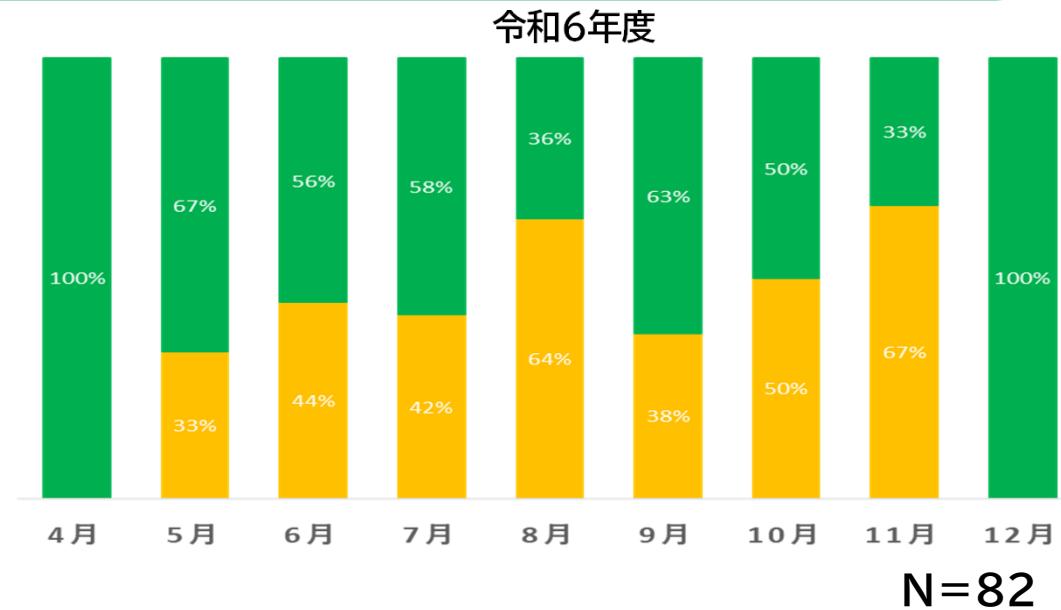
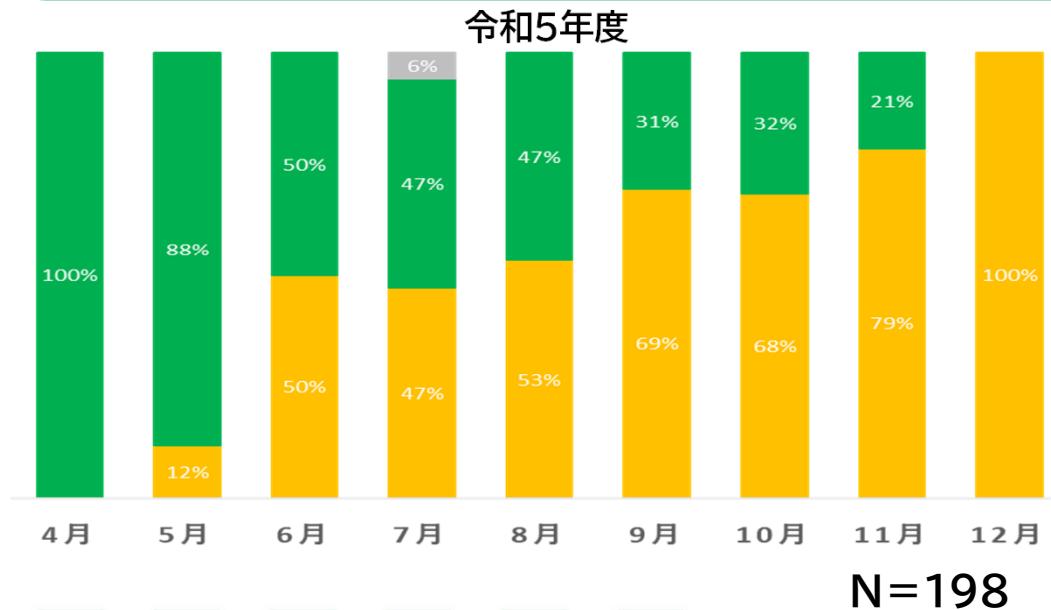


○ 例年と比較して出没件数は多かったが、人身被害件数の顕著な増加はなかった。



人身被害発生場所：クマ類（令和5・6年度と令和7年度の比較）

- 令和7年度の7月以降は、令和5・6年度と比較して人の生活圏での被害の割合が高い傾向にあった。
- 各年度とも、春先以外は半数以上が人の生活圏で発生していた。



○人の生活圏：■

※市街地や人家周辺、事業所、公園、農地、道路を「人の生活圏」とした。

○クマの生息地：■

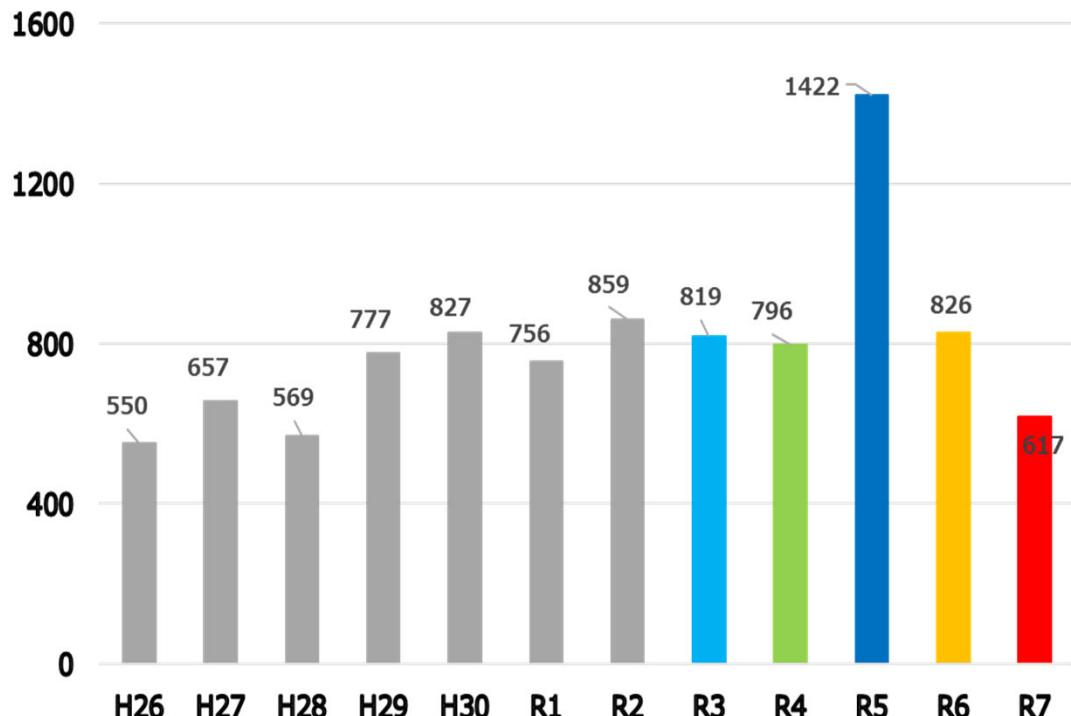
※森林内にある事業所や森林、河川敷(上流部を含む)を「クマの生息地」とした。

○その他：■

許可捕獲数：ヒグマ

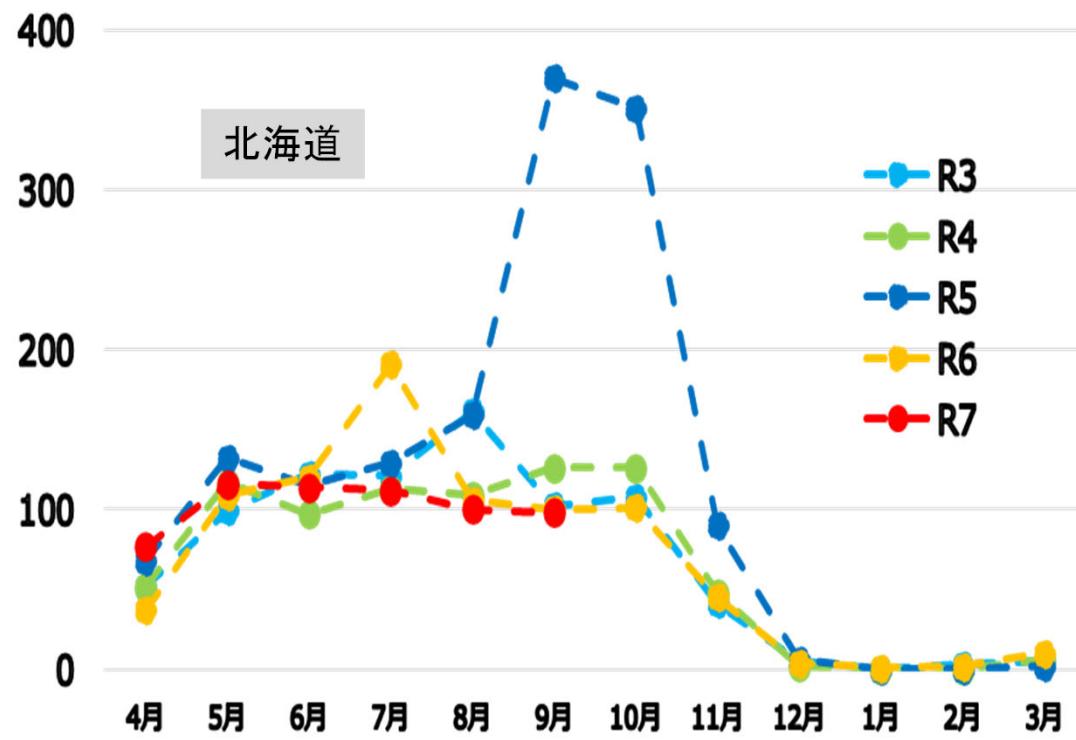
- 令和6年度の許可捕獲数は例年並みであった。
- 令和7年度の許可捕獲数の月別の傾向は例年と同様となっている。(9月末時点)

ヒグマの許可捕獲数



(令和7年度の数値は9月末時点)

直近5年の許可捕獲数（月別）

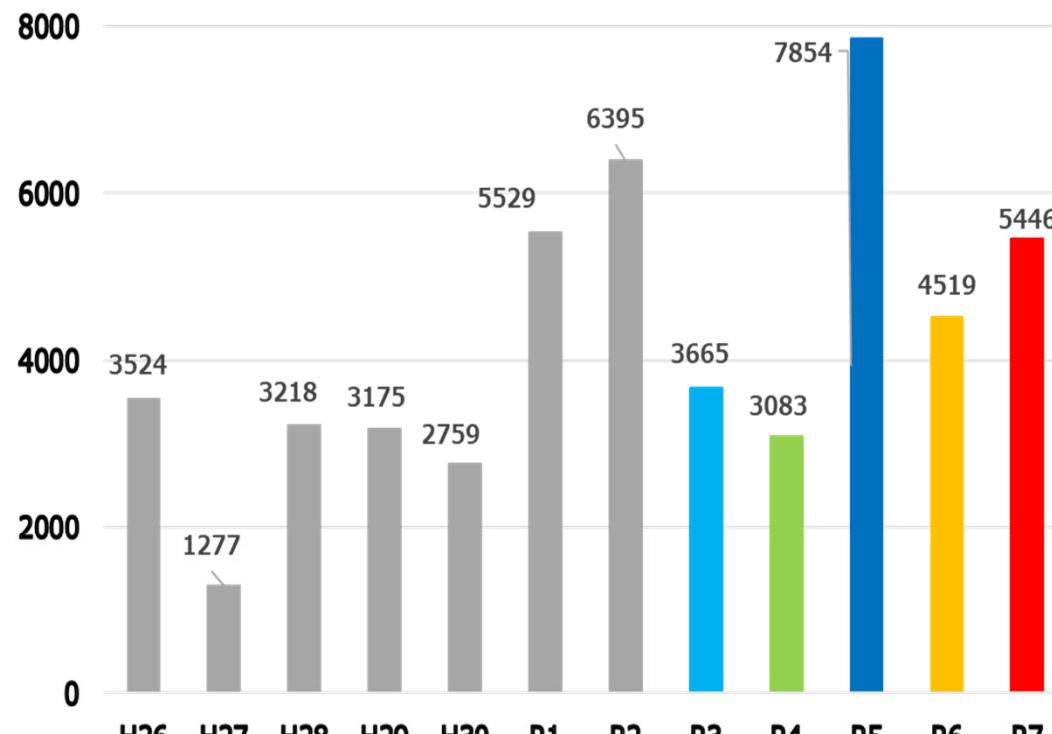


(許可捕獲数は非捕殺数も含む)

許可捕獲数：ツキノワグマ

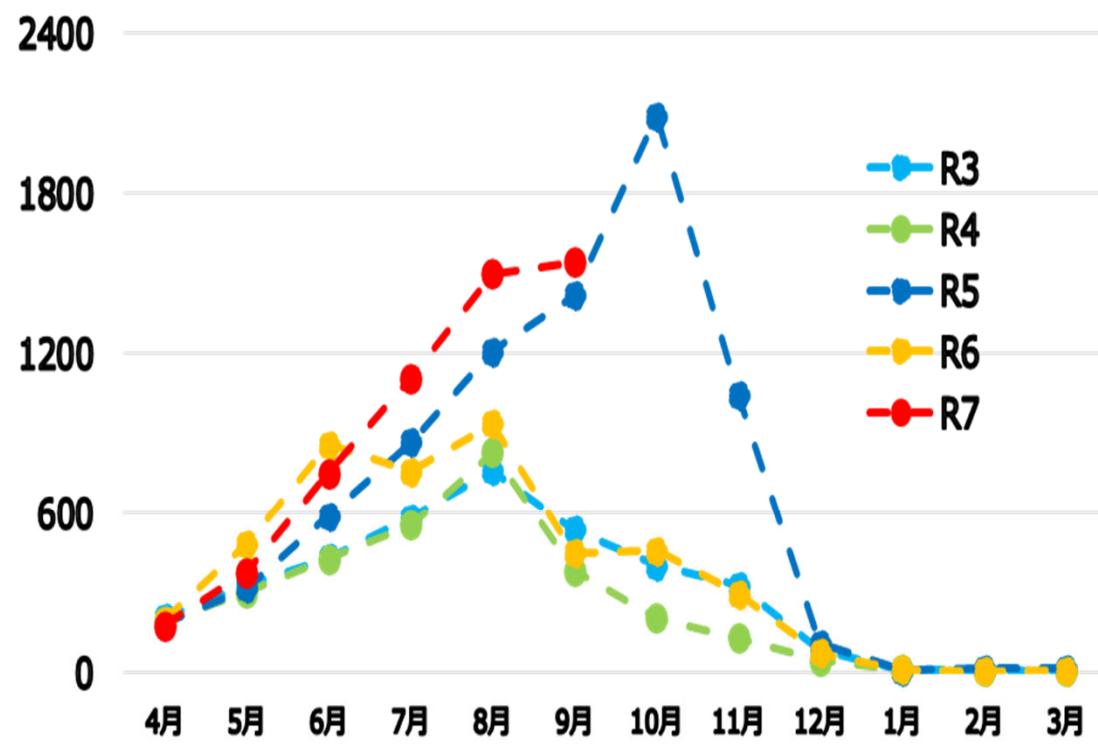
- 令和6年度の許可捕獲数は、令和5年度の6割程度であった。
- 令和7年度の許可捕獲数は、令和5年度より増加している。(9月末時点)

ツキノワグマの許可捕獲数



(令和7年度の数値は9月末時点)

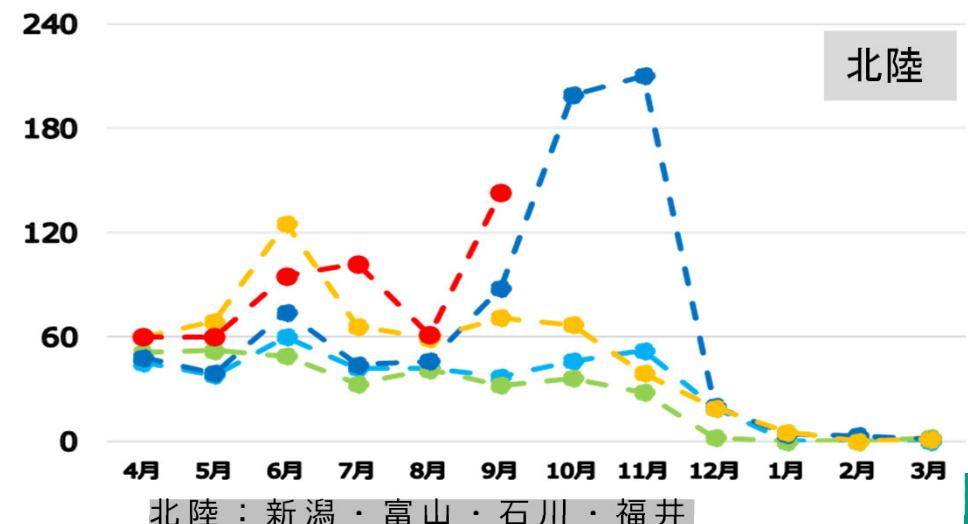
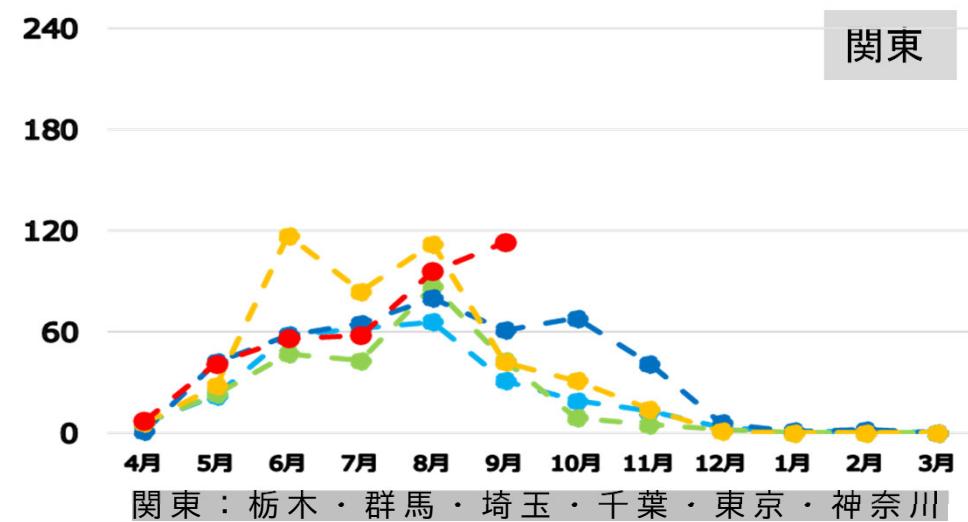
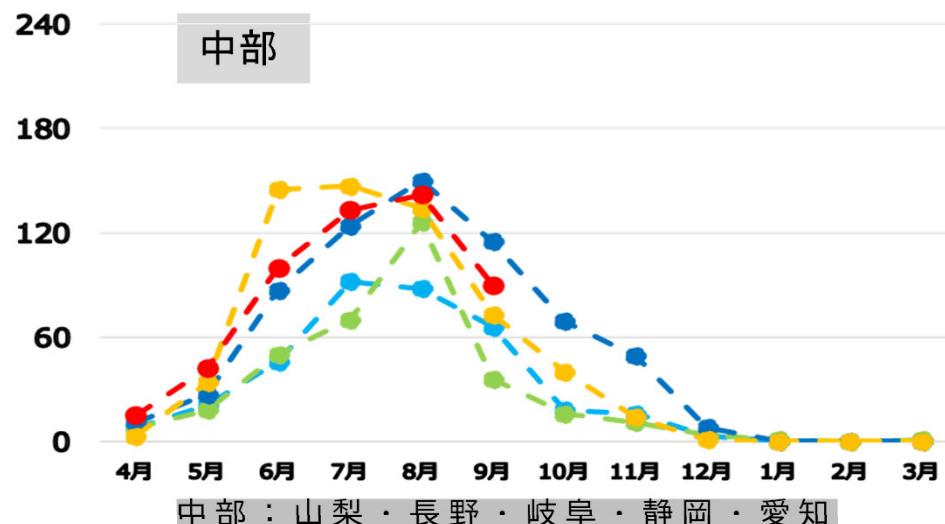
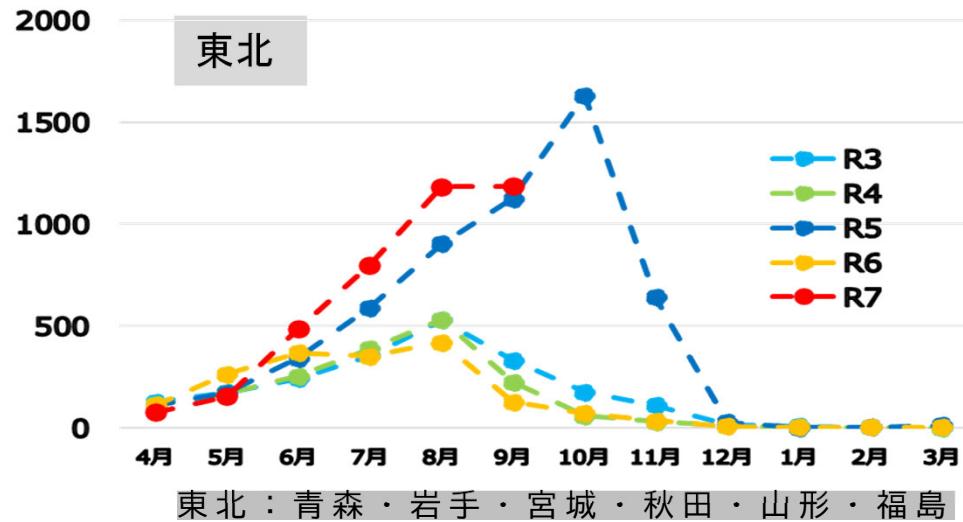
直近5年の許可捕獲数（月別）



(許可捕獲数は非捕殺数も含む)

許可捕獲数（月別）：東北・関東・北陸・中部

- 東北・北陸は6月以降の捕獲数が多く、出没件数と同様の傾向だった。
- 関東・中部は例年並みで推移しているが、関東は9月にも増加している。



許可捕獲数（月別）：近畿・紀伊半島・東中国・西中国

- 紀伊半島を除く地域は、春先は例年より多い傾向にあったが、それ以降は例年と同様の傾向にあった。

